

ドラゴンへの階段 第13回

《エッセイ版》

佐藤 洋祐

「神仏頼みと試行錯誤③」
皆さん、こんにちは。皆様の「無事」健康を心よりお祈り申し上げます。仏教で言う四苦「生老病死」は人間として生きるものには避けられないことですが、だからこそ今を精一杯生きて参りたいと強く思う毎日です。

ここまで、「日本レコード大賞を狙うぞ!」という目標に向けての神仏頼みをはじめ、いろいろな願掛けをするうちに、ついに「高い声で唄えますように!」という願いがあったという間に叶ってしまった、そしてそこに喜んで「どんな歌がうまくなりますように!」という更なる欲張りなお願いに神仏がお応えくださったのか、歌唱の技術はどんどん磨かれ、でも、実はそこには大きな落とし穴が・・・という前回までのあらすじでした。さて、どんなことがあったかと言いますと・・・

願掛けを始めてからは発見と改善の毎日、もちろん歌の練習にも没頭し、ボイストレーニングの素晴らしい先生にもつくことができ成果に溢れた充実した期間でした。いけいけ!とどんどの様相で毎朝、「体を100パーセント使い切ったよ!」うな、聴き手様のお心に届く歌が一日も早く唄えるように精進してまいります。お力添えの程をお願い申し上げます

「と願掛けしておりました。」
そうこうしている間に、歌を主としたライブハウスでの演奏の機会がやってきました。(私はサックス奏者としての仕事が多く、歌を主としたものは月に2、3回です)意気揚々として成果を發揮すべく、これまで歌えなかった曲にチャレンジ!「今までは違う自分をお聞かせできるぞ!」という具合です、結果は!と言いますと・・・無念!恥ずかしい、悔しい失敗を経験しました。急激に身に着いた技術というものは、実際ステージでは顕われないものです。お客様に囲まれた状況は、一人で練習しているのとは訳が違います。時間をかけて無意識にできるレベルまで体に沁みついたことだけが、ステージでは自分を助けてくれるんですね。そんな当たり前の事、今となってはなんとも笑ってしまいますが、その時はお客様に申し訳ないやら、悔しいやら、恥ずかしいやらでした。

その日の夜に、自宅の神棚に向き合います。大失敗を神様に報告するべく、心静かに思いを巡らせますと・・・実は神様はちゃんと私の願いをお聞きくださっていたのです。「一日も早く体を使い切った歌が唄えるように」、そこに到達するために一番手っ取り早い、そして手厳しい教えとして、手痛い失敗という経験をくださったのでした。そうか、ちゃんと神様は私のことを見てくださっている。本当に自分が今どうしたいのか、よく考えてみるのが大事なのだ。それから、お願いの内容を考えることが自分の中でも大事なことになる、しっかりと時間をかけるようになりました。

後日談ですが、また歌のライブの日が来て、その日の朝のお願いは「よいシヨウができますように!」でした。神様、お願いを温かく叶えてくださいましたよ♥。

さて、この「神仏頼みと試行錯誤」、次回は私なりに、この願掛けというものについて考察させていたいただきたいと思えます。次の連載の日まで、皆様がどうかお健やかに実りの多き日を過ごされませう。



挿絵 TAKAKO

佐藤 洋祐 (サトウ ヨウスケ)
ジャズミュージシャン。サックス奏者としてグラミー賞を2度受賞、ノミネートは4度。海外での活躍で世界的に高い評価を得た。その後2015年末千葉県に住まいを移し現在に至る。2019年より日本の歌を唄うシンガーとしても活動を開始。

中国・コロナ禍 この機に及んで「武漢号」と名付けた通信衛星を打ち上げ

新型コロナウイルスの流行中にも関わらず5月5日に中国は独自の宇宙ステーション建設用の大型ロケットを初めて打ち上げ宇宙開発に拍車をかけているとありました。さらに

12日午前には「武漢号」と名付けた通信衛星を小型ロケットで打ち上げたともいうのです。新型コロナウイルス感染源と目されるのは他ならぬ中国・武漢です。マスクやPCR検査でもたまたしている日本政府と比べものにならない肝の据わった中国政府。さらにチョモラ

ンマ(エベレスト)の標高再測量に向けて中国自然省の登山隊が5月中の実施を目指して頂上へ向かっているというのです。大したものです。米国の調査チームがGPSで測量した8850mが気にいらぬ中国。李文亮の件と同様アメリカと中国の対立は一層強まりそうです。